# 十勝岳の火山活動解説資料

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

**昨日（27日）23時15分頃から28日00時52分頃にかけて62-2火口付近でごく微弱な火映を観測しました。**
**この現象は、62-2火口内での高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。**
**火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火山ガスの濃度が高くなっている可能性がありますので注意してください。**
**＜噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）が継続＞**

## ○活動概況

昨日（27日）23時15分頃から28日00時52分頃にかけて、山麓に設置している高感度の監視カメラにより、62-2火口付近でごく微弱な火映を観測しました（図１）。その後の状況は雲のため不明です。十勝岳で火映が観測されたのは昨年（2021年）８月７日以来です。

この現象は、62-2火口内での高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられ、2020年６月以降時折観測されています。今回観測された火映は、2020年６月に観測された同現象と比べ、範囲が狭く継続時間が短いものでした（表１）。

今回の火映の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、62-2火口の噴煙の状況や地殻変動にも特段の変化は認められていません（図２）。

火口周辺では火山ガスの濃度が高くなっている可能性がありますので、注意してください。

## ○活動評価

十勝岳では、2006年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動は2017年秋頃に停滞し、その後も膨張した状態が現在も維持されています。さらに、ここ数年は地震の一時的な増加、微動発生や地震増加と同期した傾斜変動、62-2　火口及びその周辺での噴煙・噴気の増加や温度上昇、微弱な火映が観測されるなど、浅部の活動は活発な状態が継続していますので、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

---

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

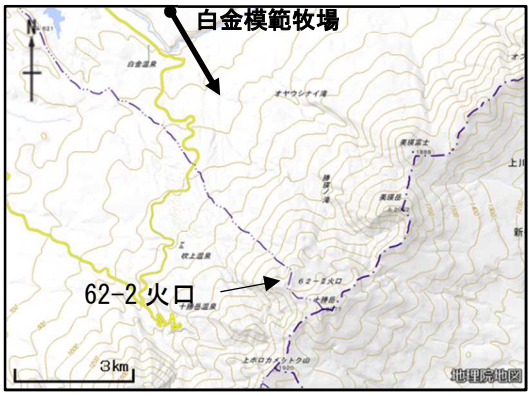


図１　十勝岳　62-2 火口で観測された火映及び監視カメラ位置図と撮影方向

表１　十勝岳　2020 年６月以降 の 62-2 火口付近で観測された火映のリスト
（山麓に設置された高感度の監視カメラによる）

| 2020 年６月以降の 62－2 火口における火映の発生状況 | |
|---|---|
| 2020 年 6 月 7 日～6 月 19 日 | 「微弱な火映」を断続的に観測 |
| 2020 年 8 月 17 日～8 月 18 日 | 「ごく微弱な火映」を断続的に観測 |
| 2021 年 3 月 13 日～3 月 14 日 | 「ごく微弱な火映」を断続的に観測 |
| 2021 年 4 月 7 日～4 月 13 日 | 「微弱な火映」を断続的に観測 |
| 2021 年 6 月 17 日 | 「ごく微弱な火映」を観測 |
| 2021 年 6 月 28 日 | 「ごく微弱な火映」を観測 |
| 2021 年 7 月 17 日 | 「ごく微弱な火映」を観測 |
| 2021 年 8 月 7 日 | 「ごく微弱な火映」を観測 |
| いずれの現象も山麓に設置された高感度の監視カメラで観測しました。 | |

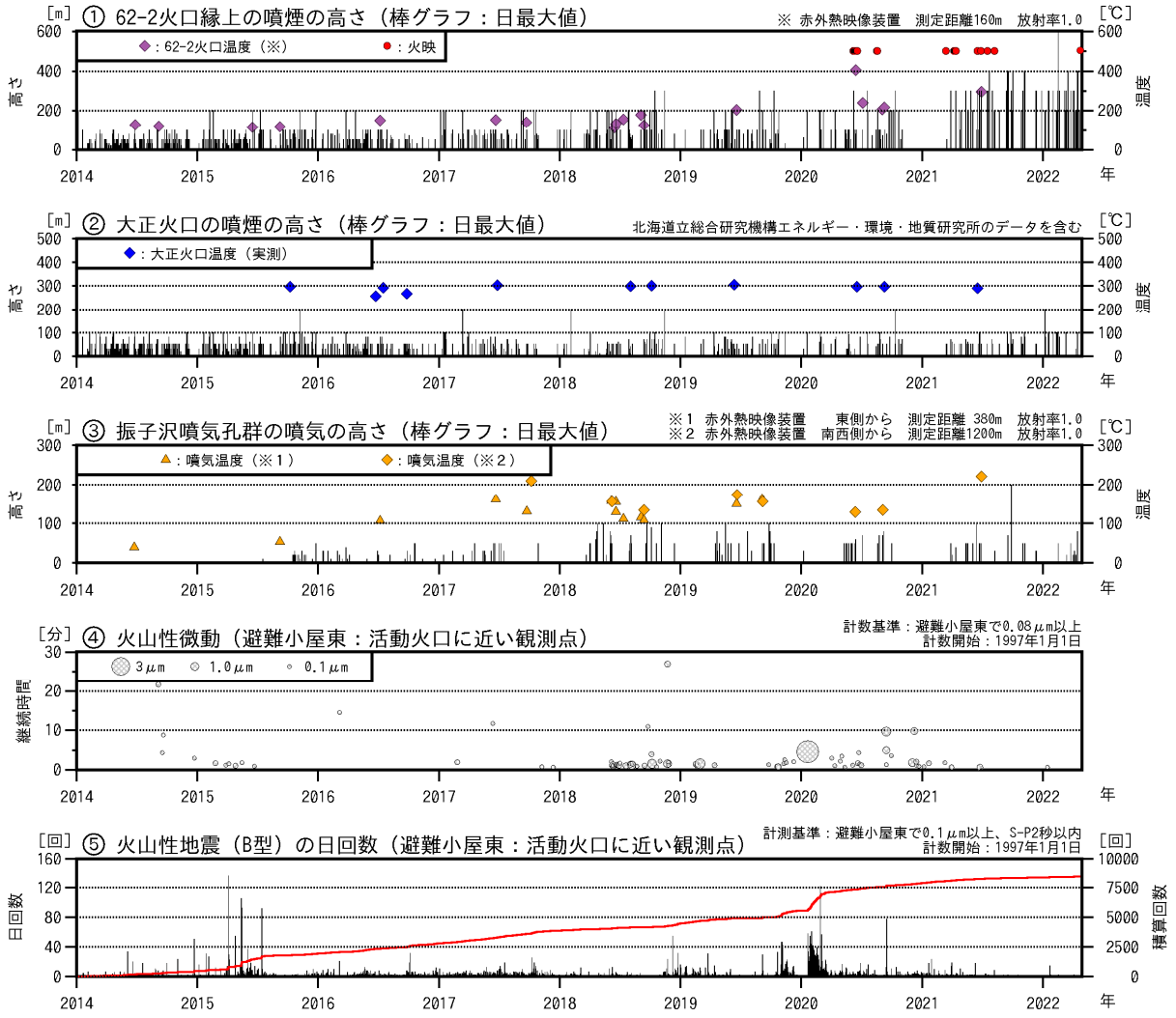


図２　十勝岳　火山活動経過図（2014 年１月～2022 年４月 28 日）

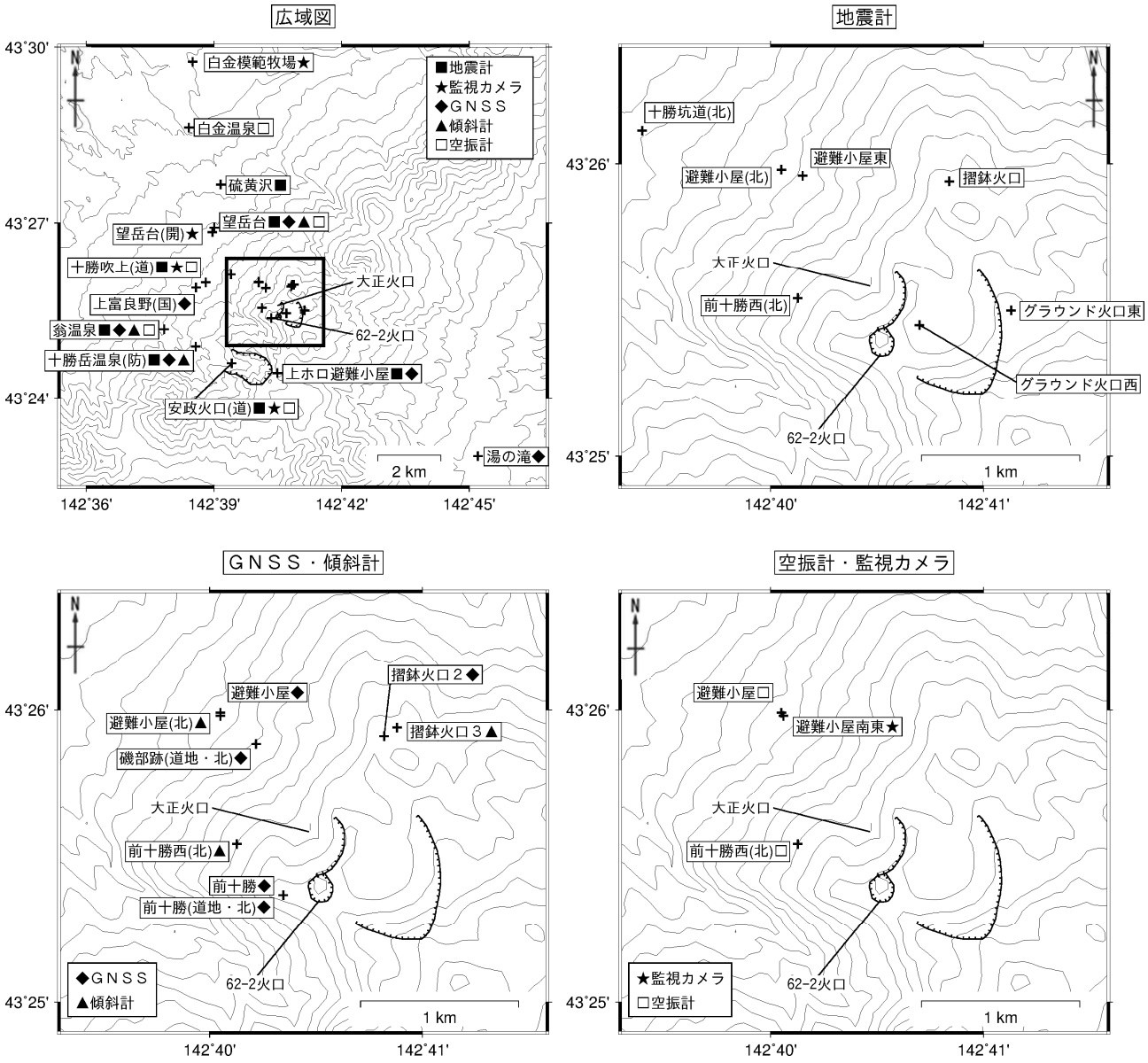


図３　十勝岳　観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。
＋印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（開）　：国土交通省北海道開発局
（国）　：国土地理院
（北）　：北海道大学
（防）　：国立研究開発法人防災科学技術研究所
（道）　：北海道
（道地）：地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所